

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育研究組織が、理念・目的に照らして適切なものであるか1年に1回学部長室委員会で定期的に検証を行う。	→学部長室委員会での検証状況。	A	A			

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
	(説明) 大学の学部・学科の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである。
★ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) い ず れ か に チ ェ ク シ テ ク ダ サイ 。 →→→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない
	(説明) 学部長室委員会及び教授会において毎年資料を配付して、検討している。
その他	現時点では教育研究組織は適切なものと言えるが、社会の理系分野に対するニーズの急速な増加を考えると、近い将来現在の理工学部では、十分な理系教育ができない可能性があり、さらなる拡充が望まれる。

《評価指標データ》

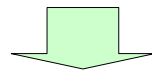
- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

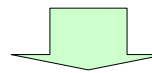
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○教育研究組織について、定期的な検証が行われ充実が図られています。

【学内委員】

○小項目4.0.1について、教育研究組織は適切なものであると記述されていますが、どう適切であるかももう少し具体的な理由を明記することが望めます。組織の適切性についての検証は定期的に行われており、評価できます。新たな理系分野の充実については、新中期計画に沿って、今後順調に進展していくことが期待されます。

○学術の進展や社会の要請との適合性に関して学部長室委員会で検証を行っているのでしょうか。また将来構想委員会があるようならば、そこでも検証をされているのではと思われます。もしそのような組織での検討を行っているのなら、実施回数を含め示す事が望めます。

○理念・目的に照らして適切な理由を、簡単でも示されることが望めます。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

4.01(現状説明)

元々あった理学部の物理学科と化学科を土台として新学科が組み立てられており、教育組織は教育目標である基礎教育を重視した応用分野の教育が徹底できる適切な構成になっている。

4.02(現状説明)

★ 現在社会的にも理系分野の充実の要求が高まっている中、学部長室委員会では理工学部の新分野の増設も考慮して、話し合いを行った。さらに、新中期計画で設置された「KSC戦略本部会議」の下に発足した「理工学部将来構想委員会」においては、強化充実すべき理工分野について、2011年度にはいって4回にわたり具体的に討議を行った。